秦野市都市農業振興計画の進行状況について

１　目　的

令和３年度から令和７年度までの５年間を計画期間とする、秦野市都市農業振興計画（以下、「計画」という。）の進行状況を把握することにより課題等を明らかにし、今後の計画推進に役立てる。

２　時　点

令和５年３月３１日

３　把握方法

(1)　「重点施策・事業」について

計画では、計画期間中に特に重点的に実施する取組みとして、１１の重点施策・事業を掲げている。また、この重点施策・事業の進行状況を把握するため、各重点施策・事業に関連の強い事項を指標とし、令和７年度までに達成を目指す全１３指標に対して、最終目標値を設定している。

今回は令和４年度末時点で概ね到達していることが望ましい目標と比較し、図表１のとおりＡからＤの４区分で進行状況を評価した。

なお、この年度ごとの概ね到達していることが望ましい目標は、計画中の「目標設定一覧（計画P.77）」の「目標設定の考え方」で示している毎年の増加数等に基づくものとしている。ただし、毎年の増加数等を示していない一部の指標については、最終目標値に必要な数値を計画期間でほぼ均等に配分した数値としている。

●図表１　指標の評価区分（令和４年度末の概ねの目標と比較）

区分		内容
A	目標到達	目標に到達している
B	概ね順調	目標の７５％以上１００％未満
C	やや遅れている	目標の５０％以上７５％未満
D	遅れている	目標の５０％未満の数値

(2)　各事業について

計画では、基本目標（Ⅰ～Ⅳ）に掲げる４つの分野において、計画期間中に実施する事業、全１０１事業（重複掲載事業は１事業としてカウント）に取り組むこととしている。各事業の取組状況について、「検討」、「着手」、「完了」及び「継続」の４区分に分類し把握する。

４　進行状況（令和５年３月３１日時点）

(1)　「重点施策・事業」について

全13指標のうち、8指標（61.5%）がA評価（目標到達）、3指標（23.1%）がB評価（概ね順調）、1指標（7.7%）がC評価（やや遅れている）であり、D評価（遅れている）はなかった。

ア　概　況

「重点施策・事業」の全１３指標の評価は図表2-1のとおりであり、Ａ評価（目標到達）が８指標（61.5%）、Ｂ評価（概ね順調）が３指標（23.1%）、Ｃ評価（やや遅れている）が１指標（7.7%）、Ｄ評価（遅れている）が０指標（0%）であった。（図表2-2 参照）

なお、１指標（学校給食の食材に占める地場産物の使用率）については、年度ごとの概ねの目標を設けていないため、中間年の令和５年度実績までは評価しない。

目標に到達しているＡ評価の指標については引き続き計画的に進めていき、やや目標に至らなかったＢ評価についても大きな課題はないため目標値を意識しながら進めていく。また、Ｃ評価となった指標については、原因等を捉え可能な限りの改善を図り、目標値達成に向けて進めていく。

●図表 2-1　重点施策・事業（指標）の実績と評価

No.	重点施策・事業名	指標名(定義等)	策定時 (R2.3)	最終目標値 (R8.3)	年度ごとの概ねの目標	実績	1年目 (R4.3)	2年目 (R5.3)	3年目 (R6.3) 【中間年】	4年目 (R7.3)	最終年 (R8.3)
基本目標Ⅰ：農業経営の安定化と担い手の育成・確保											
1	認定農業者・地域の中心経営体の確保	人・農地プランの掲載者数	95人 (R元年)	113人	R3:101人 R4:104人 R5:107人 R6:110人 R7:113人	実数	108人	109人			
						区分	A	A	－	－	－
2	農業経営の合理化の促進	認定農業者の経営改善計画の達成率	80% (R元年)	80%	R3:80% R4:80% R5:80% R6:80% R7:80%	実数	69%	83%			
						区分	B	A	－	－	－
3	新たな担い手の育成・確保	新規就農者数	84人 (R元年)	114人	R3:94人 R4:99人 R5:104人 R6:109人 R7:114人	実数	99人	103人			
						区分	A	A	－	－	－
4	環境整備	鳥獣被害対策重点取組地域数	－	8地域	R3:3地域 R4:4地域 R5:5地域 R6:6地域 R7:8地域	実数	6地域	9地域			
						区分	A	A	－	－	－
基本目標Ⅱ：農地の保全と農地の持つ多面的機能の活用											
5	農道・農地の整備、維持管理	農道の整備延長	－	480m (戸川、柳川、ほか新規2地区) (合計)	R3:80m R4:100m R5:100m R6:100m R7:100m	実数	53m	105m			
						区分	C	A	－	－	－
6	農地の利用集積の促進	農地利用集積面積	52ha (R元年)	64ha	R3:56ha R4:58ha R5:60ha R6:62ha R7:64ha	実数	53ha	56ha			
						区分	B	B	－	－	－
基本目標Ⅲ：安全な農産物の生産・消費による地産地消の推進											
7	地産地消の推進	地産地消サポーター協力事業所数	47事業所 (R2年)	55事業所	R3:49事業所 R4:50事業所 R5:52事業所 R6:53事業所 R7:55事業所	実数	50事業所	50事業所			
						区分	A	A	－	－	－
		学校給食の食材に占める地場産物の使用率	37.2% (R元年)	50%	R5:40.0% R7:50.0% ※中間年及び最終年のみ目標設定	実数	32.4%	32.7%			
						区分			－		－
8	環境にやさしい農業の推進	優良農産物登録認証件数	7件 (R元年)	12件	R3:8件 R4:9件 R5:10件 R6:11件 R7:12件	実数	7件	5件			
						区分	B	C	－	－	－
9	特産・振興農産物の普及・拡大	落花生の作付面積 ※補助金申請面積	1,886a (R元年)	1,950a	R3:1,906a R4:1,918a R5:1,928a R6:1,939a R7:1,950a	実数	1,661a	1,606a			
						区分	B	B	－	－	－
基本目標Ⅳ：農業に対する理解の促進と交流の活性化											
10	体験型農業の拡充	体験型農業参加区画数	344区画 (R元年)	375区画	R3:355区画 R4:360区画 R5:365区画 R6:370区画 R7:375区画	実数	118区画	323区画			
						区分	D	B	－	－	－
		はだの農業満喫CLUB会員登録者数	250人 ※R2.10時点 (R元年)	590人	R3:350人 R4:410人 R5:470人 R6:530人 R7:590人	実数	396人	692人			
						区分	A	A	－	－	－
11	食農教育の推進	小学生・親子農業体験事業及び学校等における食農教育の実施回数	101回 (R元年)	503回 (合計)	R3:63回 R4:110回 R5:110回 R6:110回 R7:110回	実数	113回	143回			
						区分	A	A	－	－	－

●図表 2-2　評価区分別の指標数

区分	指標数	割合
Ａ（目標到達）	8	61.5%
Ｂ（概ね順調）	3	23.1%
Ｃ（やや遅れている）	1	7.7%
Ｄ（遅れている）	0	0%
未評価	1	7.7%
合計	13	100.0%

イ　Ｃ評価（やや遅れている）について

「優良農産物登録認証件数」は、各生産団体との連携により新規登録件数の増加を図ったが、更新の負担やメリットの少なさを理由に減少してしまった。今後は、生産団体への周知・連携を図るとともに、認証品のＰＲを積極的に行い、メリットの創出を図っていく。

(2)　各事業について

ア　概　況

全１０１事業の全てに取り組んでおり、「検討」が２事業であり、残る９９事業は「継続」となり、計画どおり取り組むことができている。

イ　「検討」事業について

・「焼却施設等新たな処理方法の検討や整備方法の検討（基本目標Ⅰ-基本施策３-⑨捕獲）」について、農作物の鳥獣被害対策のため、捕獲したニホンジカ及びイノシシについては、ジビエ利用するものが増えているが、ジビエ利用に適さないものに対する新たな処理方法を検討した結果、新たに焼却処理を受け入れ可能な事業者と契約し、既存の事業者に加え、２箇所の民間焼却施設で対応することとした。なお、新たな焼却、減容処理施設の整備については、必要に応じて今後も検討していくこととする。

・「農業振興地域整備計画の見直し（基本目標Ⅱ-基本施策１-①農地の保全）」について、前回改定が令和４年１月末であり、今後も概ね５年ごとを目途に計画の見直しを検討する必要があるため、次回の改定に向けた基礎調査の実施時期等について検討を実施した。引き続き次回の改定に向け、検討をしていく。

５　中間評価の総括

本市の農業振興の状況を捉えるため、本計画の「重点施策・事業」に対して指標を設定し、その指標の実績と目標値を比較し評価することで把握することとしている。

そこで、令和４年度の「重点施策・事業」の各指標の実績を概ねの目標と比較して評価すると、全１３指標中の１２指標について、８指標がＡ評価（目標到達）、３指標がＢ評価（概ね順調）、１指標がＣ評価（やや遅れている）であり、Ｄ評価（遅れている）はなかった。

Ｃ評価の指標については、生産団体への周知・連携を図るとともに、認証品のＰＲを積極的に行っている。

以上のことから、計画全体としては着実に推進が図られていると評価できるが、Ｂ評価、Ｃ評価の指標については、現状における課題を整理するとともに、最終的な目標の達成に向け計画的に進めていく必要がある。

なお、本計画においては、目標数値に対する達成状況のみで評価を実施しているが、計画を見直す際には、その他施策の取組状況等を踏まえてより適切な評価を実施できるよう検討をしていく。